

編集後記 正倉院展に思う

毎年奈良公園に秋が訪れると、奈良国立博物館で「**正倉院展**」が催されます。

正倉院はシルクロードの終着点と言われます。シルクロードによってペルシアやインド、東アジアから伝わった数々の美術工芸品が中国にもたらされ、それが遣唐使によって日本へ渡ってきました。その保管庫が正倉院です。シルクロードにあたる国では記録はあるものの現物が一切残っていない、まさに世界で唯一というものが正倉院には多数保管されています。正倉院宝庫は毎年秋に勅封が解かれて宝物の点検が行われ、その時期にあわせて宝物を一般に公開するのが「正倉院展」です。(^^)

昔から日本は中国大陸から文化や仏教や稲作等、数えきれない位いろんなものを取り入れてきました。でも、ただ取り入れるだけではなく、日本の風土や日本人の価値観にあわせて創意工夫を重ねて現在に伝えているものも多々あります。

そのひとつが文字です。

漢字からカタカナ、平仮名が生まれました。

漢字の中にも日本で創られたものもあります。いわゆる「**和語**」です。

音読み熟語は漢語、訓読み熟語は和語という区別がされますが、丁寧な物言いをする時に、上に「ご」をつけるのが漢語で「お」をつけるのが和語なんて見分け方もあるみたいです。(例外はあります)

例えば、「**ご友人**」→「**友人**」は漢語

「**お友達**」→「**友達**」は和語 …… こんな感じです。

実は、「**働く**」も和語です。「お働き・・・」と言うことはあっても「ご働き」とは言いませんよね。

「**にんべん**」に**働く**、つまり「**人と働く**」、「**人のために働く**」で、「**働く**」。

「働く」の読みは「傍(はた)を楽にする」からだという説もあります。

この「働く」という字が中国にはなくて、古代の日本でなぜ生まれたのでしょうか。

それは今よりずっと生と死が隣り合わせだった時代。日本はいつ侵略されてもおかしくない資源の乏しい小さな島国で、しかも天災も多くて、**それぞれがお互いのために動かないと生きてゆけなかったから**ではないでしょうか。

「働く」という漢字には、「われわれ日本人のあるべき姿」という古代人のメッセージが込められているような気がします。「働く」ことには、個人の損得勘定だけにとどまらない、大切な価値や尊さがあると思うのです。

さて、岸田総理が突然(?)言い出した、「**年収の壁**」対策。賃上げや最低賃金の引き上げを進めておいて年末近くなってから「**年収の壁**」を理由に働くことを拒否されるパート従業員(社会保険の被扶養者)の現実にあわてて気付いたような印象を受けました。しかもその対策の内容がわかりにくくてその後の情報も遅い。>_<そもそも「**年収の壁**」は、「**夫は外で働き、妻は家を守るもの**」とされた時代につくられた制度で、年金の第3号被保険者は収入が一定額(=壁)になるまで保険料を求めずとも年金は給付しますという特別な優遇措置。

こんな壁(制度)がある以上、自分の損得勘定が働いてしまうのもしょうがありません。

「たとえ少額でも働いて収入を得たら、その金額に応じた保険料を納める。」そういった、

社会保険の理念である相互扶助という本来の形に見直す時期にきているのではないのでしょうか。

高齢化に伴い社会保障の費用は増え続け、税金や借金を充てて子や孫の世代に負担を先送りしています。

何とかしなければならぬような未来の原因は、きっと現在にあります。

正倉院の宝物は、土を掘り起こして見つかった出土品・・・、ということではなくて、日本人が1200年以上大切に管理して後世に繋いできたものである、ということに大きな意味があります。今年の正倉院展は、10月28日から11月13日まで奈良国立博物館にて開催されます。この機会に僕も、歴史を紡いできてくれた、先人たちからのメッセージに耳を傾けたいと思っています。



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com



正倉院はシルクロードの宝石箱やー!



by ヒコマロ



とはいえ、年を表す一文字が「働」だったらなんか微妙かも



手裏人とウチ友

オイルのダチだっち

日本人タジヤル好きね



みんなしっかりと働きなさい

はい女王様



時給あがってるから、今年はもう働くのムリ



亭主元気で留守がいい



昔は、そんな言われてたわ



今も思とるけどな